

「つながる道具」から「自分に馴染む相棒」へ。 SENA 60Xを ツーリングで使い倒して 見えた、革新UIのリアル

編集長・モリの実走検証
インプレッション

編集長モリ

本誌編集長、歴代のSENA（も含めたインカム全般）は大体試している。今回、最新の60Xをツーリングやロケ、通勤など様々なシーンで試してみた

インカム選びは、通信性能のスペック争いから「いかにライダーの走りに寄り添うか」という新時代に入った

その答えとしてセナが放つ革新派の旗艦「60X」を編集部がツーリングへ連れ出し徹底的に使い倒してきた

カタログのスペック表には載っていない

実際の走行現場で掴み取った「60X」のリアルな真価をここでお届けする

文／編集部 問：SENA日本総代理店 インターソリューションマーケティング <https://senablueetooth.jp>

【TOPIC】2 ボタン割り当て機能 「自由度の高さが鍵。 左側上下ボタンを 自分好みの特等席へ あてがう快感」

今までのインカムは通信優先で、ソロ多用の「音楽再生/停止」や「電話応答」が1階層奥（長押しなど）にあった。60Xはボタン割り当ての自由度が高く、左側の上下ボタンに頻繁に使う機能を直感配置できる。まずはデフォルトの操作感を試した上で自分好みに最適化していくといい。インカムが自分のスタイルに歩み寄る神機能だ。

【TOPIC】1 Sound by BOSE 「音の奥深さに驚嘆。 高速道路の激しい 風切り音すらねじ伏せる クリアサウンド」

音響に詳しくなくても体感できるクリアさと音の奥行き感がある。真価を発揮したのは高速道路の走行時だ。激しい風切り音がヘルメットを叩く過酷な環境下でも、音が潰れてしまうことなくクリアに耳へ届く。長距離走行での疲労感を確実に軽減してくれる圧倒的なサウンドパワーは、一度体験すると手放せなくなる。

【TOPIC】3 ジョイスティック 「手探りのロスが 完全消滅。 指を触れた瞬間に 確定する直感の ホームポジション」

従来の3ボタンは指でなぞる「探す作業」が必須で地味なストレスがあり、ダイヤルも回転方向に迷うことがあった。それらを一発解決したのがジョイスティックだ。指を触れた瞬間にそこが操作の基準点となり指探しのロスが消える。上下のシンプルな動きで直感操作できる本機は、過去最高の使い勝手だと断言できる。

【TOPIC】4 IPX7防水&マグネット装着 「ガチッとした装着感と スマートな着脱。 過酷な雨でも 走りに集中できる安心感」

マグネット式の装着感は実に強固で安心感があり、それでいて外す時は驚くほど簡単。雨天走行でもIPX7の高い防水スペックが前提にあることで、機械トラブルを気にせず走りに集中できた。ちなみにLEDは主張が強めだったのでアプリで今はおとなしくさせている（OFF）。消せる自由度の高さも大人に嬉しい。

答が1階層奥（長押しなど）の操作になっていた。60Xはカスタマイズの自由度が高く、押しやすい左側の上下ボタンへ頻繁に使うアクションをダイレクトにあてがうことができる。インカム側がライダーのスタイルに歩み寄るこのカスタマイズ性は、まさに長年望んでいた機能だ。

そして目玉である「BOSE」の真価は、高速道路に入った瞬間に強烈に理解できた。激しい風切り音がヘルメットを叩く過酷な環境下でも、音が潰れてしまうことなく驚くほどクリアに耳へ届く。音響に詳しくなくても体感できる奥行きのあるサウンドパワーは、高速域でのストレスや疲労感を確実に軽減してくれる。

ハード面でも抜かりはない。マグネット式の装着感は実に強固で走行中の不安がなく、外す時はスマートで簡単。さらに雨天走行でも、IPX7の高い防水性能が前提にあることで機械のトラブルを気にせず走りに集中できた。ちなみに派手なLEDライトは個人的に少し主張が強かったため、アプリの設定でOFFにしているが、派手さを楽しむのも自由だ。

60Xは単なる通信機器ではない。走行中のあらゆるストレスを削ぎ落とし、自分好みの操作感に寄り添ってくれる「最高の相棒」だ。

60X

価格：5万9800円

通話距離（Mesh）：2.0km
バッテリー（Mesh）：19時間

- 1 風切り音をねじ伏せる「BOSE」の圧倒的音響
- 2 「手探しストレス」を完全消滅させるジョイスティック
- 3 ソロ派にこそ刺さる「カスタムボタン」の特等席化

60Xを使って分かった
SENAの新しい形

インカム選びは、接続人数や通信距離といったスペックの競い合いから「いかにライダーの走りに寄り添うか」という新時代に入った。その答えとしてセナが放つ革新派の旗艦「60X」を、ツーリングへ連れ出し徹底的に使い倒してきた。カタログの数値からは見えてこない、実際の走行現場で掴み取ったリアルな真価をここでお届けする。

装着して走らせると、まず操作系の革新性に驚かされる。従来の3ボタン式は、走行中に指でなぞって位置を調べる「手探りの作業」が必須で、これが地味なロスでありストレスだった。ジョグダイヤルも音量上下の回す方向に迷うことがあったが、それらを一発で解決したのが60Xのジョイスティックだ。指を触れた瞬間にそこが操作の「ホームポジション」となり、探すロスが完全に消える。上下の単純動作で迷いなく扱える直感性は、過去最高の使い勝手だと断言できる。

この操作性をさらに引き立てるのが「ボタン割り当て機能」だ。これまでのインカムは通信機能が優先されており、ソロ走行時に多用する音楽の再生・停止や電話応